

令和5年度 熊本市学校プール再編懇談会

日時：令和5年(2023年)10月24日(火) 14:00~16:30

場所：SPring 熊本花畑町7階会議

○議事

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局挨拶
- 3 関係者紹介
- 4 懇談会趣旨説明
- 5 議事「熊本市学校プール再編について」

○出席者

熊本大学大学院教育学研究科	教授	坂下 玲子
民間プール運営団体代表	熊本県スイミングクラブ協会副会長	大賀 恵美
熊本市立小学校校長代表	大江小学校長	松永 裕子
熊本市立中学校校長代表	芳野中学校長	武藤 敦子
モデル事業校	飽田南小学校長	赤星 和明
モデル事業校	田底小学校長	益永 一幸
モデル事業校	芳野小学校長	西釜 勝久
モデル事業校	吉松小学校長	村上 利美
モデル事業校	城北小学校長	石原 将
モデル事業委託業者	マリーンスイミングクラブかもと	小代 孝尚
モデル事業委託業者	流泳館熊本西部スイミングクラブ	西川 幸子
モデル事業委託業者	菊南スイミングクラブ	須崎 賢治
モデル事業候補校	桜木小学校長	川上 輝美
モデル事業候補校	植木小学校教頭	出田 智子
熊本市教育委員会事務局	教育次長	小島 雅博
熊本市教育委員会事務局	教育次長	田口 清行
熊本市教育委員会事務局	総括審議員兼教育総務部長	中村 順浩
熊本市教育委員会事務局	学校教育部長	須佐美 徹
熊本市教育委員会事務局学校施設課	首席審議員兼学校施設課長	内村 智
熊本市教育委員会事務局指導課	課長	福田 衣都子
熊本市教育委員会事務局指導課	教育審議員	清水 宏一郎
熊本市教育委員会事務局指導課	主任指導主事	角居 竜夫
熊本市教育委員会事務局指導課	指導主事	竹元 浩人
熊本市教育委員会事務局指導課	指導主事	高宮 さつき

熊本市教育委員会事務局指導課

事務局	<p>これまでの学校プール再編の経緯及び今年度の事業説明をする。平成 29 年 3 月、熊本市公共施設等総合管理計画が出された。その内容は 2 つあり、①今後、財政状況が厳しさを増す中で人口減少等により公共施設の利用需要が変化すること。②長期的な視点をもって公共施設の更新・統廃合・長寿命化を行い、財政的負担を軽減・平準化するとともに公共施設等の最適な配置を実現していくことが必要であること。</p> <p>熊本市が保有する各施設別延床面積の割合を示したグラフである。全体の約 35% を学校教育施設が占め、第 2 位の占有率となっている。課題として、公共建築物は財政的観点から全施設を現状の規模で更新することは、極めて困難であることから、施設の利用状況や地域バランスを考慮し集約や廃止を進めることになっている。また、今後急速な老朽化及び財政的制約の中で、適切に維持管理していくことが必要とも示されている。</p> <p>このような中で、将来を見据えての具体的な目標として、公共建築物の総延べ床面積を 40 年間で 20% 削減、公共建築物の目標耐用年数を 70 年としている。</p> <p>そこで教育委員会では、学校プールの在り方を見直していくことを検討している。ただし、全ての学校を実施していくということではなく、学校規模を考慮し、実施可能などから検討している。</p> <p>次にスイミングクラブとの連携において、期待される効果と懸念される課題についてであるが、期待される効果としては、プールの管理が不要、天候に左右されず授業ができる、子どもの泳力が上がる可能性がある、コストの削減。懸念される課題としては、日程や指導内容の調整が必要、遅刻者・早退者の対応、継続が困難になった場合の対応などが挙げられる。</p> <p>次に学校プールの 1 年間の維持管理費のコストについて説明する。時間管理には、水道・薬品代、ろ過器保守点検代、器械の点検、維持経費などがかかる。このプール維持管理費を積算すると 1 校当たり計算して、毎年平均約 125 万円かかっている。またプールを再建した場合、建築費などに約 1 億 5 千万円かかり、耐用年数 50 年で割ると 1 年あたり 300 万円となる。年間の維持管理費を含めるとコストは年約 425 万円かかる。</p> <p>次に民間スイミングを使用した場合の費用は、年間 1 人 9 千円。この金額は先進校、都市から情報を得て設定した。インストラクター、バス代を含む。一人当たり 9 千円とした場合、年間約 425 万円に対し、472 名以下の人数であれば、プールを建て替えるより民間スイミングクラブを活用した方が費用が抑えられると試算している。</p> <p>そこで、モデル校選定の条件として、①築 50 年以上またはプールの老朽化が著しいこと②児童数約 470 名以下であること③移動時間 10 分以内であること以上 3 つの条件を満たす学校を考えている。この条件の下、令和 4 年度は飽田南小と田底小の 2 校でモデル事業を行った。また、令和 5 年度は、4 年度のモデル校 2 校に加え、城北小、吉松小、芳野小の 3 校を拡充し、計 5 校で実施した。なお、芳野小は、芳野中のプールの 2 レーンを底上げ工事し、中学校とプールを共用している。授業にはスイミングスクールからインストラクターを派遣している。</p> <p>それでは、今年度からモデル事業を行ってもらった 3 校の校長先生及び 3 クラブの代表の方から実施状況を報告してもらおう。</p>
-----	---

<p>城北小 石原校長</p>	<p>城北小は、392名、通常学級13学級、特別支援学級5学級となっている。菊南スイミングさんと話し合い、各学年1グループ、特別支援学級1グループの7グループで、75分6回で実施。午前3～4時間目、午後5～6時間目。75分6コマにしたのは、移動時間を入れ、前の時間や給食時間等に影響しないようにするためである。</p> <p>人数に合わせてバス等2～3台で乗って行く。一斉指導で体操等を行い、その後、泳力別に指導。顔つけ、面かぶり等能力別に実施。グループ分けをどの学年も実施し、児童の能力に合わせた指導をしていただいた。特別支援学級のお子さんにも能力別に指導していただいた。</p> <p>学習のまとめとして6年生は着衣泳をしていただいた。評価と指導の分担として、インストラクターに指導していただき、教師は子どもたちを見ながら、評価をするという形で実施。分担をしながら、評価と指導を行うことができたため、大変ありがたかった。</p> <p>感想であるが、インストラクターの方がたくさんおられ、目が行き届き、個人に応じた指導がなされる。教師も指導方法を勉強できる。水温が高くて水に対する恐怖心が軽減された。水の管理が必要ない等がよかった。先生方から出た意見としては、グループが分かれるので、目標設定が難しかった。今後、連携をしっかりと行いたい。また、スキルアップと学び合いの場のバランスについて、今後しっかりと菊南スイミングさんと連携をしていきたい。</p> <p>子どもたちの感想としては、コーチが優しく、しっかり教えてくれた等概ね良かった。雨でも安心。2,3年生は1年前の水泳の授業の記憶があるため、宝拾いやゲームがなかったことが残念な様子であった。また一つの動作を継続する場面が多かったなどがあったが、子どもも先生方にとっても好評であった。</p>
<p>菊南スイミング須崎氏</p>	<p>授業自体非常にスムーズに行うことができた。先生方の協力が非常に大きかった。子ども達も初めて会うインストラクターに対して安心して授業をうけることができていた。水泳技術の習得、心肺機能の向上を目標に行い、能力別に行った。人数に応じてインストラクターを配置した。学校の指導計画とスイミングのものをすりあわせて合わせて行った。既に当クラブで習っている児童もおり、スムーズだった。</p> <p>課題としては午前中の授業が給食の前ということもあり、特に低学年は着替えに時間がかかり、午前は少しタイトな日程となった。学習の目標を子ども達に把握させるところが少し足りなかったかなと感じる。</p>
<p>吉松小 村上校長</p>	<p>本校は城北小のちょうど半分くらいの人数である。全校児童151名、1クラス20名～30名前後の人数である。通常学級が6学級、特別支援学級が2学級ある。特別支援学級の子どもたちは保護者、教師とも話し合い、交流学級及び1年生の学年に入り実施した。本校のプールは大変老朽化している。機械や金属の劣化、プールサイドに敷いてあるシートの底が浮き上がるような状態がある。</p> <p>今回、マリーナクラブかもとさんと水泳の授業をスタートした。5月から9月までということで実施。本校の場合、田底小が昨年度からされていたので、その基礎の上に始めさせていただいた。2,3時間目の時間に75分の6回。担任、インストラクターのチームティーチング、バスでの送迎を行った。</p> <p>事前の連絡会で、低中高の学年でそれぞれ打合せを行い、施設見学や指導計画などしっかり立てることができた。担任は事前の情報交換のみで水泳の授業がスタートするので、従来であれば、プール掃除や施設の使い方などを職員で</p>

	<p>共有しなければならぬ所だが、その必要がなく、安心して始めることができた。プールでは、能力別に指導をしていただいた。担任もそれにつく感じで行った。準備運動をトレーニングルームで行わせていただき、その後、注意事項、説明を聞いて実施。見学の子どもも施設内が見渡せる所で見学し、担任が指示を与えそれを行った。実際の変容であるが、0から9mしか泳ぐことができなかった子達は4年生と6年生での減少がみられなかったが、5年生では、10人いたのが3人となった。また、5、6年は100m泳ぐことができるようになった児童が飛躍的に多くなった。担任以外すべての教員が見学をしに行ったことで、保護者等から質問があっても答えられるようにし、全員でこのモデル授業に取り組んだ。</p> <p>小中一貫校であるため田底小と同学年で合わせて実施した。将来同じ中学校に行くので、連携をすることができた。児童はバスに乗っていくこと自体が楽しみであったようで水泳が苦手な子どもも楽しみにしていたようだ。また、田底小の友だちができたことがうれしく、私にそのことを話してくれる子ども達もたくさんいた。</p> <p>先生方からは「安心して水泳の授業ができた。」「技術面についてコーチの方々の指導から学ぶことができた。」「自分も泳ぎ方について適切な説明をすることができた。」「たくさんのコーチがいらっしゃったので、一人一人の実態や様子をじっくり観察することができた。」等の意見があった。</p> <p>また、評価もスムーズに行うことができた。マリーンスイミングさんからは最後に一人一人に変容についてのコメントをいただき、それを合わせたところで評価をすることができ、自信をもって評価ができた。本年度、連休明けに学級閉鎖があり、7月までの計画に収まらず、9月まで実施となった。契約内容が2年目であり、ゆとりを持った計画をしていただいたので、非常によかった。</p>
マリーンスイミング 小代氏	<p>昨年度との違いとして、1校であったものが2校の受け入れとなった。100人から250人となった。それに伴い実施日数も増えた。2校一緒にということで、出来るだけ交流できるように配慮した。両校仲良くしている様子が見られた。5、6年生は集団宿泊等の影響もあったかもしれないが、すでに良い関係が築けている。泳力に関しては、田底小が2年目ということもあり、着実に泳力がアップした感覚があった。先生方もしっかり準備してこられ、子ども達もきちんと取り組まれたので泳力は確実に伸びた印象を受けた。天候を心配することがなく、屋内プールで予定した回数の実施ができるということは、本当によく、泳力アップにつながると考える。</p> <p>先生方との事前の打合せの時間調整が少し大変であった。打合せに関しては、田底小の先生方は2年目でスムーズであった。吉松小の先生方は、はじめは心配されていたが、実際にやってみることで安心をされた。児童もその流れに沿ってスムーズにされていたので、来年はもっとスムーズにより良い授業ができるのではないかと思う。</p>
田底小 益永校長	<p>本年度に関しては、吉松小とは合同で小中一貫の流れで行ったが、保護者、子どもたちにとってプラスアルファのメリットがあり、とても良かった。</p>
芳野小 西釜校長	<p>プールの併用、かつインストラクターの先生の活用をすればどうなるかという仮説を立ててみた。授業を楽しく受け、なおかつ泳力がアップする。「学びに向かう力」「知識および技能が上達する」ことをもとに実施した。結論から</p>

<p>E-LAND 大賀 氏</p>	<p>言うと今回の取組はとても成果があった。</p> <p>事前準備は令和4年度末から実施した。指導課、スイミング、芳野中との話し合い、プールの底上げを行った。プールの改修は、安全面に配慮し、5レーンの内2レーン底上げ、水深を80cm、転落防止柵も設置。年度始めに危機管理マニュアルの改正、この中には中学校での対応を追記した。授業の時間の調整、小学校は月水金の2時間から4時間目を割り当ててもらった。1単位時間の授業のマニュアルを体育主任が作成。着替え、移動、授業、移動、その後必ず10分間の休憩を入れる計画を立てた。指導と評価について担任とインストラクターで確認、T1をインストラクター、T2を担当で実施した。</p> <p>プール開き後、1回目からグループ別指導を実施。簡単な泳力チェックを実施し、すぐにグループ分けをして実施していただいた。最後に泳力チェックをしていただいたが、一律にクロールでの調査ではなく、ビート板を用いた泳ぎ方での調査など個に応じた調査を実施していただいた。自尊感情を大切に配慮していただいた。子ども達から感謝状の贈呈、E-LANDさんから終了証の贈呈があった。プラスワンの人員は授業を実施してない教員を今まで充てていたが、担任を充てることができ、先生方の時間の確保ができた。また、学校だより、ホームページ等で情報発信を行った。</p> <p>次に成果と課題であるが、児童に関しては、意欲の高まり、泳力の向上。教職員に関しては、指導法を学ぶことができ、業務負担の軽減にもつながった。課題としては、雨の時など移動が少し大変であること。終わってからの更衣が低学年は少し大変。その後の授業がやや急ぎ足になり、児童の集中力低減などが挙げられる。教職員は運営面での課題として朝の水温チェックを中学校まで行き行っていたことや荒天時の判断。途中中止の場合の対応。移動時の安全確保。授業の予備時数の確保。途中中止になった場合の交通費についてなどが課題である。</p> <p>考察であるが、児童は、「授業は楽しかったか」については肯定的な回答。保護者も同様。泳力の向上に関しても同じ。保護者も同様。インストラクターの導入については、来年度も実施して欲しいという意見がほとんどであり、保護者も同様。中学校のプール使用については「とてもよかった」がほとんどであり、小学校のプールの今後については「撤去して欲しい」という意見が多かった。</p> <p>教職員は子ども達の意欲について「とても高まった」と答え、泳力について「子ども達はとても向上した」と答えている。また、インストラクターの指導については「とても良かった」と答えている。</p> <p>中学年以上は中学校の深さのプールを使用。インストラクターの判断で使用した。負担軽減に関しては、肯定的な意見がほとんどである。安全管理等も同様である。来年以降もこの事業の継続を職員全員希望している。小学校のプールについては全員撤去して欲しいということであった。結論であるが、先程も示したが、今回のモデル事業は成果があり、次年度以降も継続を希望する。</p> <p>課題である中止の連絡等は7時50分までに管理職が行う。予備時数については、プール開きを1週間前倒しで実施し、確保したい。インストラクターの交通費に関しては配慮していただきたい。</p> <p>学校で細かく計画を立てていただき、それに従って実施することができたのでスムーズであった。それぞれのグループで授業を実施したが、学習指導要領の授業計画に沿い、スイミングの良さも取り入れながら実施した。残念ながら、見に行くことができなかったが、私の感想を述べさせていただきたい。</p>
------------------------	--

事務局	<p>プールの水深 80 cm はとても指導しやすかった。安全面に関してもそうであるが、落ちて怪我はしないような水深であった。子どもたちに関しては、はじめは緊張をしていたが、徐々に慣れてくれた。先生の名前を覚えて読んでくれた。</p> <p>校長先生からもあったとおり、天候に恵まれなかった。指導者は自宅から直接行くので、中止の場合は途中で引き返すことになった。予備日をあと 1 日 2 日とっておき、交通費についても改善していただけたらと考えている。成果もよい意見ばかりでほっとしている。</p> <p>全体のアンケート結果について、説明させていただく。本事業を行った 5 校に対して、児童、保護者、教職員を対象にアンケートを実施した。児童 856 名、保護者 508 名、教職員 64 名から回答があった。</p> <p>楽しさについて、「スイミングクラブでの授業は楽しかったですか」との問いに対し「とても楽しかった」「楽しかった」あわせて 95% の児童が肯定的な意見であり、約 90% 以上の保護者と全ての教員が「楽しそうにしていた。」と答えている。</p> <p>泳ぎの上達について、「泳ぎが上手になったと思いますか」との問いに対して、「とても思う」「思う」をあわせて約 85% の児童が肯定的な意見であり、約 90% 近くの保護者と全ての教員が「上手になったと思う」と答えている。</p> <p>本事業の継続について「来年度もスイミングクラブで授業をしたいと思いませんか」との問いに対して、約 75% の児童が「来年度もしたい」と答え、20% が「どちらでもよい」と答えている。また約 90% の保護者とほぼすべての教員が「してほしい」と答えている。</p> <p>教員の負担軽減について、「本事業はこれまでの学校プールでの授業と比べて、全体的に負担が軽減しましたか」という問いに対して、「とてもなった」77% 「なった」17% とあわせて約 94% の教職員が負担軽減を感じている。以上のように、アンケートの結果、本事業について、児童、保護者、教職員ともにすべての項目において好意的な意見が見られた。</p> <p>次に「本事業でよかったこと、困ったこと、その他の感想」の自由記述では、「コーチがとても優しくかった」「嫌いだった水泳も楽しくできてよかった」「学校のプール学習は進度が早いけど自分のレベルでできたので、焦らず楽しかった」「とても楽しかったけど、授業が少なかった」「ペアで活動する時間や自由時間が欲しかった」次に保護者の記述では、「顔をつけるのがやっとだった子どもが『ビート板でバタ足ができそう！』と嬉しそうに報告してくれるようになった。ぜひ来年も続けていただきたい」「水が冷たいなど、子どもは従来のプールが苦手だったが、環境が整い、楽しんで授業に取り組めたようだ」「日焼けしない、水質がきちんと管理されている」「もう少し回数が多いと嬉しい」最後に教職員の記述では、「水泳は力の差が大きく、できない子は精神的負担が大きいので、上達することで自信がつき、他のことにも意欲が湧いた」</p> <p>「多くの指導者が配置されたことにより、子ども達一人一人の課題にあったメニューで学習が進められたこと、子ども達の水泳における具体的な支援の在り方を教員も学ぶことができたことなど、とてもよかった」「コスト面だけでなく、プール管理にかかる教員の時間が大きく削減され、子ども達と向き合う時間が生まれた」「設備面で熱中症の心配もなく、指導者の人数も多いことから安全であった」「児童にめあてや先の見通しを持たせることを意識したい」</p> <p>令和 6 年度以降の方向性について、説明する。まずは、令和 6 年度以降も選定条件を満たす学校をモデル校として効果検証を行っていく。モデル校として</p>
-----	--

	<p>効果が実証されたら、学校、児童、保護者、地域からの意見を踏まえ、実践校として継続をしていく。</p> <p>またモデル校の状況に応じて1年～2年の効果検証の期間を設ける。例えば、スイミングクラブとの連携が困難であった場合、公的施設での事業検証を行うなど、一律にモデル期間を設定するのではなく、各学校の状況に応じて随時実践校にしていくことを考えている。</p> <p>実践校になった場合のプールについては、各学校、地域の実態や要望などを確認しながら、撤去の方向で検討していく。今後もモデル事業の選定条件を満たす学校については、モデル校として検証していく。表に、小学校名、プール築年数、実施場所、児童数、移動時間、再編実施案を記載している。令和6年度は、植木小学校、桜木小学校の2校の拡充を検討している。今後、このモデル事業を拡充していくにあたり、実施場所として民間クラブ以外に公的施設を利用した検証も進めていきたいと考えている。熊本市のスポーツ振興課が所管のプール施設は表のとおりとなる。</p> <p>ここには、公的施設を利用したモデル事業を行った場合の期待される効果や想定される課題を載せている。民間クラブとの連携と重なる部分が多いと思うが、他に移動手段や日程調整などが考えられる。</p> <p>最後に来年度のプール再編懇談会についてであるが、今年度同様10月中旬に開催予定である。内容は、「令和6年度のモデル授業の成果と課題の確認」及び「令和7年度以降の再編計画について」説明と報告を聞いていただき、意見を伺いたい。</p> <p>～質疑応答～</p>
事務局	<p>ここで、昨年度から実施していただいている飽田南小赤星校長先生、流泳館さんからお話をいただきたい。</p>
飽田南小赤星校長	<p>今年で2年目となる。1年目に出来なかったことが能力別の指導だったので、今年度は能力別で実施した。昨年度の課題としては、90分の5回で実施した所、「回数が少ない」であった。昨年度は、コロナの影響もあり、1回、2回しか泳げない児童もいた。流泳館さんと相談をし、6月に入ってすぐから7月上旬までということで実施。上旬以降は流泳館さんも他のお客さんもいらっしやることから、「75分にして6回してはどうか。」となり、次年度は、5月に前倒しで実施できたらと考えている。ただ、運動会との兼ね合いもあるので、体力的にどうかということも考えていかなければと思う。2年間をとおして子どもたちは確実に泳力が上がっている。教職員の負担もかなり減っている。大学を卒業してすぐに担任を持つ教員も多く、今年度から教員もプールに入り、指導をするを行った。</p>
流泳館 西川氏	<p>2年目である。泳力をもとに先生方が子どもたちの意見を入れながら、グループ分けを行った。5、6年生になってくるとバタフライまで行った児童もいた。授業の中で数百メートル泳いでいた。1、2年生は水泳の経験が浅く、怖がる子も多かった。2年生は1年次に苦手だった児童もスムーズに実施できた。3、4年生は指導員との行き違いもあったが、しっかりコミュニケーションをとり、先生方とも相談をしながら実施した。5年生は泳力がある児童も多いので、来年は楽しみ。3、4年生はコロナ禍もあり、少し水泳に対する苦手意識がある。1、2年生は経験が浅いが泳力はだいぶついてきた。来年度は今の3、4</p>

<p>桜木小 川上校長</p>	<p>年生の子達の泳力をいかに楽しくあげていくかということが課題である。6年生は最後なので、着衣水泳をしたり、水球をしたりして水泳の授業を終え修了証を渡した。</p> <p>来年度に関しては、流泳館だけではなく、スイミングクラブ全体として、光熱費や交通費、人件費等上がっているのので、その点も踏まえて予算を考えてもらえたらと思う。</p> <p>各校の取組、スイミングクラブさんのお話は、非常に参考になった。本校のプールは53年目となる。プールは大プール一つとなる。これまで補修を重ね、授業を行ってきた。6月から3週間を中高学年で実施し、終わったら水を抜いて低学年を3週間実施。</p> <p>民間でのプールでの受入れの上限等を聞きたい。本校は2クラスか3クラスになるか毎年ギリギリの状態であるため人数の制限、クラス数の制限があるのかを聞きたい。1学年一緒にプール学習をした方が、指導していただくにしても指導しやすいのではないかと。</p> <p>支援学級のお子さんの中には個別の対応が必要なお子さんもいる。支援学級のお子さんや不登校のお子さんのため学習保障の時間ができればと思う。来年度以降はグラウンドの改修も入るので、プールの使用の期間がその年度ごとに変更が可能かどうかということを知りたい。</p>
<p>植木小 出田教頭</p>	<p>お話を聞く事が出来て大変ありがたかった。人数の制限や期間などを聞きたい。本校もプールが50年以上たっている。今後、モデル事業がずっと続くことができるのか。使わなくなったプールの管理はどうすればよいのか。</p>
<p>内村施設課長</p>	<p>防災の観点からはプールの水は使えるなら使う。1年間水をためた状態で、特段問題がなければ撤去まではしておいてよいのではないかと。グラウンドの整備はトラックなど通るので、夏休みに実施したい。予算等の兼ね合いもあるので、決まったらお伝えしたい。</p>
<p>E-LAND 大賀氏</p>	<p>受入れの人数については、各スイミングのキャパによって違う。様々な状況をそれぞれのスイミングで抱えている。一番の問題は人手不足である。ドライバーや人件費の問題などがある。指導員がいれば、150人から200人一度に入れることができる。50～60人は常に入っているのも大丈夫である。スイミングで異なるので、スクールの状況で変わってくるのではないかと。</p>
<p>事務局 菊南スイミング 須崎氏</p>	<p>バス3台以上使って移動している所はあるか。</p> <p>2台と1台ということで合わせて3台使っている状況である。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度使用していないプールの状態はどうか。</p>
<p>城北小 石原校長</p>	<p>城北小は住宅地にあるため、虫や害虫の心配があったので、メダカと金魚を入れている。そのおかげでプールから虫等が出ることはなかった。</p>
<p>芳野中 武藤校長</p>	<p>月水金と小学生が来たら見に行っていたが、みるみる上達している姿があった。天候がくずれると時間割の調整が難しかった。</p>

芳野小 西釜校長	今年度は山の天候は気温が低くて変わりやすかったので、E-LAND さんにはご迷惑をお掛けした。
吉松小 村上校長	不登校児童等で参加できなかった児童対象に予備日を1日設けていただいていた。活用はなかったが、特別支援学級のお子さんのために予備日を一日設けてもらいたい。その年で、学校の抱えている問題が変わってくるので、ゆとりのある計画を立てるよう、スイミングさんと連携をしっかりとしていきたい。
マリーンスイミ ング 小代 氏	2校実施になり、期間が延びて体力的にはスタッフもきつかったが、1年やってみてだいぶ慣れた。学校とスイミングではカリキュラムが違うこともあるが、スイミングとしても学ぶことが多かった。
城北小 石原校長	はじめての実施であったのでイレギュラーなこともあり、今年度は融通をきかせてもらったが、来年度は2校となるので、実施期間や時間について聞きたい。学校が期間を長くすることが可能かどうか。
事務局	スイミングさんで対象とされているお客さんに迷惑がかからないようにと思っている。学校としては、夏休み前に水難防止の観点などから水泳授業を終えたいと考えているが、その点を互いに連携していく必要がある。
大江小 松永校長	担任の評価についての情報の共有について、特別に配慮しなければならないお子さんについての情報共有をどんな形でされたかを聞きたい。
芳野小 西釜校長	低中高で授業を実施。担任が2人いることになるので、その時間の評価は、もう一人の担任が評価を実施する。
菊南スイミング 須崎 氏	先生が入っていただき、見てもらっている。最終日に泳力調査を実施しているので、それを情報共有している。スイミングは泳力について評価している。意欲や取組の様子については、学校の先生が評価している。
流泳館 西川 氏	新しい先生方についてはスイミングの先生からアドバイスを受け、先生方も一緒に学び指導している。泳力については、結果を報告。総合的には先生方から見ていただいて評価をしている。
大江小 松永校長	先生方もコーチのアドバイスを聞いて感覚をつかめたということは素晴らしいと感じる。
田底小 益永校長	マリーンさんは子どもたちの泳力や技能を伸ばしていただき、スイミングさんは学習指導要領と違う点もあるので、基本的には学校での水泳授業であり、場所はマリーンさん。ゲストティーチャーがマリーンさんというスタンスで実施。スイミングさんのすごいことは、一目でその児童の足りない点を見極められるということであると感じる。
吉松小 村上校長	今年度は、インフルエンザで休校になり、月曜日に急に延期したことがあった。それ以外は前日に判断することができた。契約の中に今後入れていただく必要があるのかなと思う。

事務局	たくさんの意見をありがとうございます。やはり話し合い、すり合わせが大切であると感じた。保護者や教職員、児童の評価も高い。今後続けていくためには、互いによい関係を築いていくことが大事である。
坂下教授	低学年の子どもたちは水遊びが大切。スイミングさんと連携して、領域としても水遊びがあるので実施して行ってほしい。今後も楽しい時間を作って欲しい。子どもと子どもの関わりの場面を作っていただければと思う。先生方も水の中に入ってもらって、感覚的なところも学んでいただきたく思うので、良い機会である。
事務局	芳野中の仕切りは中学校の方には影響がなかったか。
芳野中武藤校長	特になかった。
事務局	民間の方は、深さは同じか。
E-LAND 大賀氏	同じである。
事務局	スイミングさんでは、水遊びの部分としてはできることもあればできないこともあるのではないかと、学校と民間で考えてしていただく必要があると感じる。
田口次長	アンケートについてであるが、少数ではあるが、否定的な意見もある。この点については何か学校でわかることがあれば教えていただきたい。
芳野小 西釜校長	「教えてもらっていないようだ。」という意見があったが、それは誤解である。授業公開をしていなかったのも、来年度は自由に保護者に見てもらって子どもたちの様子を見てもらいたい。
城北小 石原校長	城北小はグループ分けをした点で、高学年では特定の子どもと学びたいということがあった。学校は水泳指導に関してスキルもあまりないので、子ども達に対して手を変え品を変えということでも色々なことをやっていくのであるが、スイミングさんは、一つの技能に関して継続して指導されるので、子ども達との受け取り方の違いがあったのではないかと感じる。
田底小 益永校長	小中一貫を打ち出して保護者に見て来ていただいたのだが、たまたま最後の日で、着衣泳だったので、学校ごとに分かれて行っていたこともあったのではないかと感じる。
田口次長	教育委員会としては、非常に良い取組であるが、もしかしてすでにスイミングで習っていて、授業では物足りなかったり、回数が少なく感じたりするのではないかと。
田口次長	この事業を行って、実際にスイミングに入られた方はいらっしゃったか。
流泳館	水が苦手なお子さんが数名入っていただいた。水慣れができないお子さんも

西川 氏	いらっしゃることから、授業の様子を見て欲しいという思いがあり、学校から各家庭に見学に来ていただくようメールをしてもらった。このこともスイミングに入られたきっかけになったのではないかと思います。
田口次長	水泳が苦手で上手になりたいという思いをもっているお子さんやスイミングに入ることで持っている力が開花するお子さんがいてもよいのではないかと感じることから尋ねた。
流泳館 西川 氏	やはり、コロナの影響は大きいのだなと感じた。3, 4年生の泳力や今後学校の授業としてどう改善するかということは大きな課題である。
E-LAND 大賀 氏	遊びや余裕の部分についてはスイミングは通年をとおしてやっているのですが、遊びの時間を取り入れていっているが、学校の授業となるとインストラクターも力が入るので、遊ばせていいのかという思いが強く、今日話を聞いて遊びをとおして水の楽しさや怖さを伝えるいい機会であると思うので取り入れていきたい。
内村課長	今年度初めてプールの底上げをさせていただいた。先程 80 c mはちょうどいいというご意見をいただいた。1年生についてはちょっと深いかなと不安であったが、遊びの部分でいうとどうであったか。
芳野小 西釜校長	はじめは 70 c mでお願いしたが、業者さんから 80 c mでということであった。
E-LAND 大賀 氏	70 c mだと高学年に不都合かなと思う。子どもたちからは怖いという声はなかった。
須佐美部長	感想を述べたい。スタートは財政からであったが、前向きにとらえられていたので良かった。先生方も異動されるので、ノウハウは財産になると思う。着衣水泳などもやっていただいているので、ありがたい。今後、どう拡充していくか課題であり、情報交換をしながら進めていきたいと感じる。

6 事務連絡

7 閉会